

友井 :規模が大きく部屋数が多いのに利用率が高いのは人口が多いからである。

委員 :高ヶ坂などは最初は利用率が低かったが、需要を開発していったら利用率を上げていった。

友井 :需要を開発して利用率をあげられたのは人口が多いという大きな土台があったからである。つくし野は人口が少ないからそこにアプローチしてもつくし野センターを利用している人たち以外の需要を大きく増やすことはできない。

委員 :つくし野地区以外の高ヶ坂でそろばん教室をやっている業者にアプローチをしてつくし野で定期利用してもらうなどすればゼロではない。

友井 :ゼロではないが黒字にするための何百という利用が生まれるとは考えられない。私は必ず赤字になると思っている。赤字になってもいいですよ。それを上回る理想的な目的があって、つくし野のコミュニティが発展するのであり住民が納得すればそれでいい。人口がすくなくセターがあるから必ず赤字になる。

委員 :会館はキッチンがあるから、ママ友のみそをつくる会などセンターを利用できないグループの需要はある。そういう需要を掘り起こせばいい。

委員 :フリースペースでコーヒーを安く出せば、センター以外のふれあいの場として需要はある。

友井 :フリースペースは市民協働推進課も言っていたが、どの会館も最初は夢があるからやろうと計画するが、常駐する人がいないとできないのでどこも最終的には設置していない。

委員 :つくし野でやろうじゃないですか。成功させましょうよ。ハンドレットクラブを説得すれば影響力があるからいろいろな団体がきてくれる。

委員 :ボランティアが4~5人いればできる。

友井 :他のどの会館でも常駐でボランティアがいるところはない。週に一度、受付でボランティアにてもらおうというはある。ボランティアで常駐管理はできない。

委員 :ふらっときてコーヒーを飲むというのはかなりハードルは上がる。365日人がいて開館しなければならぬ。

委員 :管理を自治会の班長にお願いすることはできない。鍵の管理をどうするかを検討になる。

次回は12月13日(金)19:30~ つくし野センター第1会議室